

学習のすすめかた（第1学年 国語）

☆国語の学習で“めざす”こと☆

- いろいろな国語作品（小説・随筆・説明文・詩・短歌・俳句・古典）や漢字・文法の学習を通して、国語への関心を高め、自分の国語に対する感性を豊かにし、ものの見方・考え方を深め、国語の基礎学力を伸ばし育てよう。
- いろいろな題材を通して、自分の思いや考えを確かなものにし、人に伝え合う力を高めよう。
- いろいろな題材をもとに、目的に応じて筋道を立て、文章を書いたりまとめたりする力を養おう。
- いろいろな題材を通して、その作品の意図する内容を的確に読みとり、しっかり把握する力を養おう。
- 社会生活に必要な国語の知識や技能を学び、言葉を適切に使えるようになるよう。
- 漢字を正確に書ける力を養おう。

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 国語（光村図書） 副教材 国語の学習 1（明治図書） 学習漢字ノート 1（浜島書店） 国語便覧（浜島書店） すらすら基本文法（浜島書店）	持ち物	（左記以外に） ノート・ファイル 国語辞典（必要な時） iPad
学習の進め方	《確かな学力を身につけるには》 ○作品（教材）理解のために、しっかり内容を考えて読み取ろう。 ○授業では、仲間や先生の話をしっかり聞き取り、自分の考えを広げ深めていこう。 ○課題への自分の思いや考えを明確にした上で発表し、仲間に思いを伝えよう。 ○学習課題をしっかり持ち、課題に対して前向きに取り組もう。 ○疑問に思ったことや、わからなかったことを解決する努力をしよう。 ○学習課題に対して多面的に観たり考えたりする力をつけよう。 ○何事もじっくり考え、発想が広げられるようにしよう。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なところにも挑戦しよう。 ○課題を解決できたことに自信を持ち、その後の国語学習につなげよう。 ○語句・文法・文学史等、国語の知識の定着に向けての努力をしよう。 ○ロイロノートやeライブラリを効果的に活用しよう。 《家庭学習》 ○予習・復習をしっかりしよう。 ○宿題・提出物にしっかり取り組もう。 ○漢字ノートはこつこつと取り組もう。 《定期テスト》 ○範囲はテスト発表時に通知します。 ○教科書・ノート・ワーク・資料集等をもとに、授業中に学習した内容や事柄をしっかり復習しておこう。 ○教科書・ノート・ワーク・資料集等をもとに、国語の知識を定着させておこう。		
学習上の注意等	○チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え着席し、授業に備えよう。 ○授業の準備物を忘れないようにしよう。 ○板書されたこと・気づいたことなどノートに工夫してまとめよう。 ○宿題などの提出は、提出期限を守ろう。 ○先生や友だちの話や発表がしっかり聞けるようにしよう。 ○ノートまとめなど個人の活動が早くできて時間に余裕ができたときは、ワークの学習に取り組む、学習内容の定着を心がけよう。また、できることをやり終えたときは、読書・資料集・語句学習・予習・復習等から各自が課題を選択し、自学自習を進めよう。		

☆学習内容および評価について☆

学習計画				評価観点		評価の場面・方法
学期	月	単 元 計 画	試験	評 価 観 点		評価の場面・方法
前期	4	・朝のリレー ・野原はうたう ・はじまりの風	中間 知識・技能	○正しく漢字が書けている。		・行動観察 (授業態度・発表)
	5	・話の構成を工夫しよう ・ダイコンは大きな根？ ・ちょっと立ち止まって		○知識や理解を問う問題を解けている。		・ノート ・定期テスト
	6	・スピーチをする ・情報を集めよう ・空の詩 三編 ・言葉を集めよう		○社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。		・ワークシート ・漢字小テスト ・聞き取りテスト
	7	・比喻で広がる言葉の世界 ・読書を楽しむ ・本の中の中学生				
	9	・大人になれなかった弟たちに… ・星の花が降るころに	期末 思考・判断・表現	○自分の立場や伝えたい事実や事柄を明確に示している。 ○自分の意見が相手に伝わるように、筋道を立てて書けている。 ○書いてある内容を読み、正確に理解できている。 ○広い範囲から話題を求め話したり聞いたりして、自分の見方や考え方を深められている。 ○相手の立場や考えを尊重し、話したり聞いたりできるか。		・行動観察 (授業態度・発表・学習の記録など) ・ノート・レポート (自分の考え・意見) ・定期テスト ・ワークシート
後期	10	・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ ・根拠を明確にして書こう ・大阿蘇	中間			
	11	・いろは歌 ・蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から ・今に生きる言葉				
	12	・「不便」の価値を見つめ直す ・話題や展開を捉えて話し合おう ・四百年のスローライフ				
	1	・書写 ・少年の日の思い出 ・二十歳になった日	期末 主体的に学習に取り組む態度	○意欲をもって授業に取り組み、粘り強く学習する態度が見られる。		・行動観察 (授業態度・発表・学習の記録など)
	2	・単語の性質を見つけよう ・構成や描写を工夫して書こう		○課題に対して自らの意見をもって振り返りを書き、そこから新たな課題を見つけようとしている。		・ノートやワークシートにおける意見や感想、疑問 ・振り返りの内容
	3	・一年間の学びを振り返ろう ・ぼくがここに		○言葉を通じて人と積極的に関わって思いや考えを確かなものにしようとしている。		
*言葉・漢字・文法・書写等は随時						

「地理歴史に興味を持ち、自ら学び、考える力を身につけよう」（第1学年 社会）
 ☆社会の授業で“めざす”こと☆

◎社会的事象に興味・関心をもち、自ら課題を発見し、課題を解決しようとする力をつけよう！！

「なぜ？の思考」から課題は生まれる。「どうやったら 解決できるのだろうか？」を考え、ねばり強く取り組むことが大切

→達成したという満足感が生まれる →自信につながる→もっとがんばってみよう という気持ちが生まれる

◎さまざまな資料をいろんな角度から分析・考察し発表したり、文章でまとめたりできる力をつけよう！！

(例)

- ・国境線の形状に特色やなぜ東京には人口が集中しているかなどについて、地図をもとに考えることができる。
- ・歴史上の人物の功績やそれぞれの時代の文化の特徴について、資料集を活用して調べることができる。など

◎課題の追求に必要な資料を効果的に活用し、それを的確に読みとり、まとめ、発表する力をつけよう！！

(例)

- ・身近な地域の地形的な特徴や気候の特徴について、地図や雨温図から読みとることができる。
- ・歴史事象の特徴やその時代背景について、書籍やインターネットを利用してまとめることができる。など

◎社会的事象について理解を深め、知識を身につけよう！！

- ・日頃からテレビのニュースを見たり、新聞を読んだりして世の中の出来事について家族と話したりしよう！
- ・事象の名前だけでなく、内容をきちんと理解すること。また説明する力をつけること。

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 「中学生の地理」 (帝国書院) 地図帳 「中学校社会科地図」 (帝国書院) 資料集 「ニューススタイル ビジュアル地理Ⅰ」 ワーク 「地理の学習1」 (浜島書店) 教科書 新しい社会「歴史」 (東京書籍) 資料集 「中学歴史資料集 学び考える歴史」 ワーク 「歴史の学習1」 (浜島書店)	持ち物 教科書・資料集・ファイル・ 地図帳・ワーク・ タブレット端末
学習の進め方	《確かな学力を身につけるには》 ○授業には、今日何を学習するのかを確認し、目的意識をもってのぞみましょう。 ○授業では私語は慎み、よく話を聞きましょう。また、聞くだけでなく、自分で学ぶ意志を持ち、意欲的に学習に取り組みましょう。 ○習ったことの復習を忘れないようにしましょう。 ○疑問に思ったことや、分からなかったことを追求して、その事柄を解決しましょう。自ら考えようとするのが大切です。 ○わからないことはそのままにせず、友達や先生に聞きましょう。 《家庭学習》 ○予習・復習に取り組み確実に自分の力にしていきましょう。 ○宿題・提出物をしっかり仕上げましょう。提出期限は必ず守りましょう。 《定期テスト》 ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○学習する前に計画を立てることが大切です。見通しをもって学習しましょう。	
学習上の注意	・チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席していること。 ・自ら授業に参加するという気持ちをもつてのぞもう。 ・板書されたこと以外に気づいたこと、大切だなと感じたことは積極的にメモをとっていこう。 ・各種提出物の提出期限は必ず守ろう。 ・タブレット端末で学習を進めます。必ず充電しておきましょう。	

☆学習内容および評価について☆

学 習 計 画				評価にあたって	
学期	月	単 元 計 画	試験	評 価 観 点	評価の場面・方法
前 期	4	オリエンテーション 【地理的分野】 第1部世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿	中間	知識・技能 ○資料活用の方法を身につけることができたか。 ○さまざまな統計・歴史資料などを読みとることができたか。 ○資料を活用した問題を解くことができたか。 ○知識・理解を問う問題を解くことができたか。	・定期テスト ・小テスト ・発表 ・グループ学習 ・作業学習（白地図等） ・提出物（レポート等） ・振り返り
	5	第2章 日本の姿 第2部世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境			
	6	第2章 世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ＜夏休み＞			
	7	・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州	期末	思考・判断・表現 ○課題に対し資料に基づいて多面的に考察し、分かりやすく伝えることができたか。 ○課題を追求する方法を工夫して考えられたか。 ○学習を通して、自らの生活や社会に照らし合わせて考えることができたか。 ○思考・判断力を問う問題を解くことができたか。	・定期テスト ・小テスト ・発表 ・グループ学習 ・提出物（レポート、スクラップ、学習の記録、テスト反省等） ・振り返り
	9				
後 期	10	【歴史的分野】 オリエンテーション 持続可能な社会の実現に向けて（歴史）	中間	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 ○課題に対し積極的に解決しようという姿勢で臨めたか。 ○学習を通じて新たな課題を持つことができたか。 ○学習した内容の到達・未到達点についての具体的な分析ができたか。 ○未到達な内容についてどれだけ努力できたか。	・定期テスト ・小テスト ・発表 ・グループ学習 ・振り返り ・提出物（レポート、学習の記録、テスト反省等） ・授業規律
	11	第1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる見方・考え方			
	12	2節 身近な地域の歴史 第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教の起こり 2節 日本列島の誕生と大陸の交流 3節 古代国家の歩みと東アジア世界			
	1	＜冬休み＞ 第3章 中世の日本 1節 武士の政権の成立 2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	期末		
	2	第4章近世の日本 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一			
	3	【地理的分野】 第3部日本のさまざまな地域 第1章 地域調査のしかた			

きみの数理的な知性を開発しよう（第1学年 数学）

☆数学の学習で“めざす”こと☆

◎数学を身につけること

「基礎・基本」を習得し、「創造性」を養おう。

基礎的・基本的な知識・手法

式の計算ができる

数量の関係や法則を見つける



多面的にものを見る力や論理的に考える力(創造力)

なぜそうなるのかな？（不思議・疑問）

問題の鍵は何だろう？（解決のキポイント）

数学好きになるために欲しい3つの気持ち

正確さ

正確にものごとを知りたい

気楽さ

楽にしかも早くしたい

的確さ

わかりやすく伝えたい

◎数学を役立てること

数学の「よさ」や「はたらき」を感じよう

「役立つから学ぶ」から「どのように役立て得るかを問いながら学ぶ」へ

身につけた数学を
活かすと



どんな身の回りの
ことを



どのように見たり考えたり
できるか

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 未来へひろがる数学1年（啓林館） 副教材 数学の問題ノート（新学社） 自作プリント	もちもの	教科書・ワーク・ノート ファイル・タブレット 直定規
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○計算力をつけよう。計算力は数学の基礎、繰り返し計算問題を解けば必ず向上します。 ○法則や公式は使うことで身につけよう。暗記するだけでは身についたとは言えません。 ○間違いを次につなげよう。どこでなぜ間違えたのかを自分で見つけることが大切です。 ○文章題・図形・グラフなどの問題では、時間がかかっても習ったことを振り返り考えることをしよう。そのような努力があって初めて「解説」が理解できます。 ○問題が解けたときの達成感や充実感を感じよう。 《家庭学習》 ○授業終了時に、ワークのできる箇所を伝えるので確認と復習をしておこう。 ○宿題は、必ずしよう。授業時に点検します。 《定期テスト》 ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○日頃からしっかり復習し、テスト前は間違えた問題や応用問題を中心に学習しよう。 《小テスト》 ○観点別で小テストを行います。授業の復習を行い、学びを定着させましょう。		
学習上の注意等	○「話を聞く」、「板書を写す」、「問題を考える」の切り替えをしっかりとしよう。 ○ノートをとるときは、スペースに余裕を持って見やすく書こう。話を聞いていて板書されていなくても大事だと思ったことは、自分で書き加えたり線を引いたり工夫しよう。 ○答えだけを書くのではなく、答えに至るまでの式や計算や考え方を書くようにしよう。 ○ワーク・ノート・レポートの提出は、期限を守ろう。 ○指示された問題が早くできたら、ワークや章末問題を進んでやろう。		

☆学習内容および評価について☆

学期	月	単元計画	試験
前期	4	正の数・負の数 ・0より小さい数	中間
	5	・正の数・負の数の大小 ・正の数・負の数の計算 ・正の数・負の数の利用	
	6	文字の式 ・数量を文字で表すこと ・文字式の約束 ・式の値、文字式の計算	
	7	・関係を表す式 ・文字式の利用	
後期	9	方程式 ・方程式とその解 ・方程式の解き方 ・比と比例式 ・方程式の利用 ・比例式の利用	期末
	10	変化と対応 ・関数	
	11	・比例とそのグラフ ・反比例とそのグラフ ・比例・反比例の利用	
	12	平面図形 ・直線と図形 ・図形の移動 ・基本の作図 ・移動と作図の利用	
	1	・円とおうぎ形 空間図形 ・いろいろな立体	中間
	2	・空間内の平面と直線 ・立体の構成 ・立体の体積と表面積 ・空間図形の利用	
	3	データの活用 ・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率	
		1年生の復習	

評価について		
評価観点		評価の場面
知識・技能	○問題を解決する手段を理解し、解決することができるか	発表内容 小テスト 定期テスト 演習問題
	○表やグラフの特徴・用語・記号・図形の性質について説明することができるか ○表やグラフをかいたり、読み取ることができるか ○基本的な作図や操作はできるか	
思考・判断・表現	○事象を数学的に捉え、なぜそうなるのかを理論的に考えることができるか	授業への取組 話し合い活動 発表内容 ワークシート 振り返る活動 定期テスト 演習問題
	○考察したことを筋道立てて説明することができるか ○いくつかの事象から、規則性・法則性を見つけだすことができるか	
主体的に学習に取り組む態度	○意欲を持って、学習に取り組むことができるか	授業への取組 発表内容 振り返る活動 提出物
	○既習事項を用いて、課題解決につなげようとしているか ○学んだことを生活や学習にいかすことができるか	

「実験」や「観察」・「考えること」を楽しもう（第1学年 理科）

☆理科の学習で “めざす” こと☆

- ◎ 自然界で起こっていることに対する関心を高めよう。
 - ・身のまわりで起こっている自然現象について、疑問に思ったことや不思議に思ったことを自ら科学的に調べたり、考えたりする態度を養おう。
 - ・実験や観察に積極的に取り組もう。
 - ・自分の生活が自然環境にどのような影響を与えているかを考え、環境を保護し、人間と自然が調和して生き続ける方法を多くの視点から考えられる力を身につけよう。
 - ・理科の学習で学んだことを「自然」に関係する身の回りのできごとと結びつけて考え、自然現象が起こる理由を説明できる力を身につけよう。
- ◎ 科学的な見かたや考え方を養おう。
 - ・実験や観察の結果を論理的、実証的、客観的に考察し、課題を解決しよう。
 - ・実験結果から、自らの考えを導き出し、規則性を発見しよう。
 - ・自然現象が起こる要因や仕組みを分析的、総合的に考えよう。
- ◎ 目的意識を持って、観察・実験などに取り組み、科学的に調べる力を身につけよう。
 - ・観察・実験の基本操作を身につけよう。
 - ・実験をしてわかったことは何か、自分の言葉でしっかり書けるようになるよう。
 - ・実験結果からどのようなことが考えられるか、事実に基づいて考え、文章で表現しよう。
- ◎ 自然の事物・現象についての理解を深め、知識を身につけよう。
 - ・基礎、基本の内容をしっかり理解し、知識を身につけ、定着させていこう。

☆学習を進めるにあたって☆

使用 教材	教科書 未来へひろがるサイエンス1 副教材 理科資料集 基礎をきずく 理科ノート	(啓林館) (浜島書店) (浜島書店) (新学社)	持 ち も の	教科書 資料集 ノート ファイル
学 習 の 進 め か た	《確かな学力を身につけるには》 ○ 学習課題をしっかりとらえ、授業や実験に取り組もう。 ○ わからないところを明確にして、必ず克服しよう。（先生に質問・友だちに聞く・調べる） ○ ノートやレポートは、自分の考えや実験結果などを丁寧にわかりやすく、自分の言葉で書こう。 ○ 自主勉強などを通して、家庭学習は毎日こつこつやっいていこう。 ○ 授業や実験には、集中して積極的に取り組もう。 《家庭学習において》 ○ 授業後（できるだけその日のうちに）教科書、ノートを中心に復習しよう。 ○ プリントなどを利用して問題を解く練習をしながら、曖昧だった部分の理解を明確にし、確実に知識を身につけていこう。 《定期テストに備えて》 ○ 中間テスト・期末テストのテスト範囲は、テスト発表時に通知します。 ○ 日頃からしっかり復習し、問題練習を中心に学習が進められるようにしよう。 ○ できなかった問題や難しい問題に再チャレンジし、重要な語句をしっかり覚えよう。			
学 習 上 の 注 意	○ チャイム着席を守り、気持ちを切りかえて、集中して授業にのぞもう。 ○ 板書されたことや、気づいたことなどノートに工夫してまとめておくようにしよう。 ○ 実験・観察においては、目的と方法を理解し、集中して取り組み、事故によるケガがないように、十分注意しよう。 ○ ノート・ワーク・宿題など、提出物の期限は必ず守ろう。			

☆学習内容及び評価について☆

学習計画				評価にあたって	
学期	月	単元計画	試験	評価観点	評価の場面・方法
前期	4	オリエンテーション		知識・技能	① 問題を解くことで実験・観察の基本操作ができているか。 ② 実験・観察レポートを工夫して書くことができたか。 ③ 作図や基本操作を問う問題を解くことができたか。 ④ ノートを工夫してまとめることができたか。
		身の回りの生物の観察			
		植物の特徴と分類			
	5	花のつくりとはたらき			
		植物のなかま分け			
	6	動物の特徴と分類			
		動物のなかま分け	中間		
		力だめし			
	7	いろいろな物質とその性質			
後期	9	いろいろな気体とその性質	期末	思考・判断・表現	① 論理的な思考ができているか。 (課題に対する予想結果に基づいた考察) ② 思考・判断・表現力を問う問題を解くことができたか。
	10	水溶液の性質			
		物質のすがたとその変化			
		力だめし			
	11	光・音・力による現象			
		光による現象	中間	主体的に学習に取り組む態度	① 意欲をもって授業に取り組むことができたか。 ② 自然に対する自己の経験を振り返ったり、自分の考えや意見を明確にしたり、新たな課題を持つとすることができたか。 ③ 未到達の部分を粘り強くどれだけ克服しようとしたか。
	12	音による現象			
		力による現象			
		力だめし			
	1	活着ている地球			
		身近な大地			
		ゆれる大地			
	2	火をふく大地	期末		
		語る大地			
	3				
		力だめし			
		総合演習			

ミュージシャンへの道(第1学年音楽科)

☆音楽の学習で“めざす”こと

- ◎ 音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって、生活を明るく豊かなものにしよう
曲想に関心をもとう
歌唱や楽器演奏に取り組もう
- ◎ 音楽のもつ曲想や美しさを感じ取り、それらを生かした表現や鑑賞の工夫をしよう
音楽・リズム・旋律・和音を含む音と音との関わり合い、形式などを感じ取ろう
基礎的、基本的な歌唱技術を身につけ、それらを生かした歌唱表現を工夫しよう
基礎的、基本的な演奏技術を身につけ、それらを生かした器楽表現を工夫しよう
- ◎ 歌唱やリコーダー演奏、創作を通して、表現する能力を育もう
読譜力などの基本的な技術を身につけ、音楽表現をしよう
和楽器を含む様々な楽器で、楽器表現する技術を身につけよう
創作において自分のイメージする曲を作ろう

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 中学生の音楽Ⅰ(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社)	準備物	中学生の音楽Ⅰ 中学生の器楽 ソプラノリコーダー ファイル
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○ 学習課題をしっかりとらえ、心とからだで表現しよう。 ○ わからないところを明確にして、必ず克服しよう。 ○ じっくり取り組み、精一杯の努力・工夫をしよう。 ○ 良いところは伸ばし、苦手とすることに挑戦しよう。 ○ 努力したのち、自分の成長したことに自信を持とう。 ○ 歌唱や演奏の喜びを感じ取ることができればすばらしい! ○ 聴く力を身につけて、自分のスキルを増やそう。 《家庭学習において》 ○ リコーダーや歌唱は、家で復習をして歌詞や旋律をおぼえよう。 《実技テストや定期テストに備えて》 ○ 歌唱やリコーダーの実技テストは、日々の努力の積み重ねを発揮する。 ○ テスト範囲の重要語句を復習する。		
学習上の注意	○ チャイム前に着席する。 ○ 楽譜に階名を書くときは、できる限り自分で努力する。 ○ 階名唱をする時は、特にリズムに気をつける。 ○ 実技テストの時は、課題をしっかりと意識する。 ○ 歌唱は大きく、響きのある声を出す。 ○ パート練習では、周りの音をしっかりと聴きながら歌唱する。 ○ 筆記・実技テストの振り返りは客観的な視野に立って書く。		

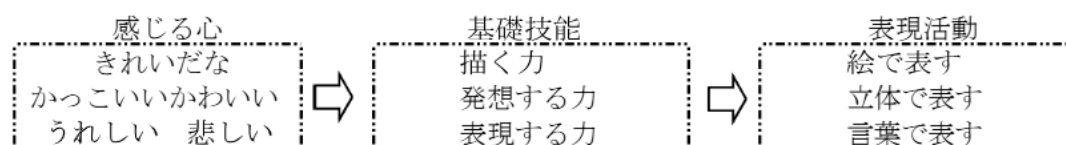
☆学習内容および評価について

学 習 計 画				評価にあたって		
学期	月	単 元 計 画	単 元	評 価 観 点		評価の方法
前期	4	校歌(歌) We'll Find The Way ～はるかな道へ～(歌) LESSON1(器)	期末	主体的に学習に取り組む態度	○主体的に・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	授業観察 (発言や役割等) 準備物 提出物 定期テスト 振り返りカード
	5	My Voice! 春-第1楽章-(鑑) LESSON2(器)			○粘り強く学習に取り組むことができる。	
	6	主人は冷たい土の中に (歌・器) MyMelody(創)			○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整し改善することができる。	
	7	LESSON3・4(器) 浜辺の歌(歌・器) 魔王(鑑)		思考・判断・表現	○旋律、強弱、速度及び歌詞の内容と旋律と速度との関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	授業観察 (創意工夫) 表現活動 ワークシート 実技テスト 定期テスト
	9	夢の世界を(歌・器) 赤とんぼ(歌)				
後期	10	雅楽「平調 越天楽」(鑑) 箏曲「六段の調」(鑑) 君をのせて(歌)	学年末	知識・技能	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ○音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解している。 ○創意工夫を生かした表現で歌うための必要な発声、言葉の発音、体の使い方など基礎的な技能を身につけている。	授業観察 (基礎的な力) ワークシート 実技テスト 定期テスト
	11	日本の民謡(鑑) ソーラン節(歌)				
	12	ポピュラーソング(器) 上を向いて歩こう(歌)				
	1	旅立ちの日に(歌) 太鼓を打ってみよう(器)				
	2	旅立ちの日に(歌) アジア諸民族の音楽(鑑)				
	3	音楽の学びを振り返ろう				

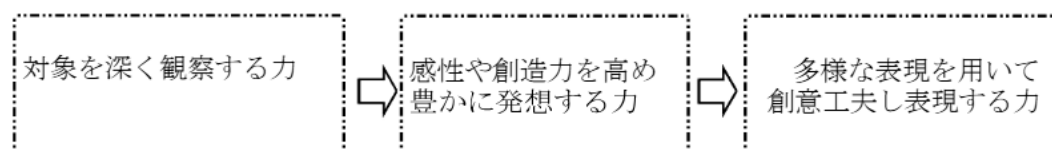
表現する喜びを味わおう（第1学年 美術）

☆美術の学習で“めざす”こと☆

◎いろいろな表現活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する気持ちを育てる。
感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養おう。



○創意工夫し美しく表現する能力を身につけよう。



○自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じ取る

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 美術 1 美術資料	もちもの	教科書、美術資料 作品ファイル（授業で配布） えんぴつ、絵の具セット その他各単元で必要なもの その都度、連絡したもの
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○「こんな風に描いてみたい、こんな風に作ってみたい」という気持ちを大切にどんどん発想の輪を広げていきましょう。 ○自分の発想を形にしていくためにはどんな技術が必要なのか、どんな材料が適しているのか試行錯誤をしながら工夫して見つけましょう。 ○学習した技術は確実に身につけて、いろんな場面で使えるようにしましょう。 ○発想や制作に行き詰まったときは、参考作品や他の生徒の作品をヒントにいろんな方法を考え乗り越えていくことが大切です。 ○自分の思いや発想が思い通りの作品になったときの喜びや達成感を大切にしましょう。 《定期テスト》 ○テストは期末テストのみ行います。 ○範囲はテスト発表時に通知します。		
学習上の注意等	○今日の授業は何をやるのかしっかり把握し、準備物を考えて用意しておきましょう。 ○チャイムが鳴るまでに教室移動を行い授業の準備をして着席していること。 ○先生の話はしっかり聞き今日の授業でやることを理解する。 ○学習計画・アイデアスケッチは大切な資料です。提出した後はきちんとファイルに整理しておきましょう。 ○提出物は期限を守りましょう。作品の提出期限もきちんと守れるよう計画性を持った作品制作に心がけましょう。		

☆学習内容及び評価について☆

学 習 計 画				評価にあたって		
学期	月	単 元 計 画	試験	評 価 観 点		評価の場面・方法
前 期	4	オリエンテーション 描く楽しみ	期 末	知 識 ・ 技 能	○材料や用具の特性を生かし、使い方、 つくり方などの基礎的な技術を身に付 け、制作に活用することができたか。	行動観察 作品評価
	5	・明暗を表現しよう ・立体的に表現しよう			○色彩、デザインの基礎的知識を身に付 け、制作に活かすことができたか。	定期テスト
	6	文字のデザイン ・レタリングの基礎 明朝・ゴシック ・色の学習			○自分らしくよりよい表現をめざして試 行錯誤をしつつ創意工夫をしたか。 ○美術作品や文化について基礎的な知識 を理解することができたか。	作品評価 定期テスト
	7	色相環・明度・彩度 色の仕組み ・絵文字 アイデアスケッチ 作品制作		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	○造形的なよさや美しさ、表現の意図に ついて考え主題を見つけることができ たか。 ○テーマに基づき自分なりに考え、豊か に発想し、構想を練ることができた か。 ○材料のもつ性質や特質をいかして構想 することができたか。	行動観察 作品計画 アイデアスケッチ 作品評価 定期テスト 振り返りシート 作品評価
	8	自己評価				
	9	平面構成 ・模様のデザイン アイデアスケッチ				
	10	彩色計画 作品制作 自己評価		主 体 的 に 取 り 組 む 態 度	○意欲を持って授業に取り組むことが できたか。	行動観察
	11				○自己の発想に基づいた課題を持とうと したか。	作品計画
	12	彫刻			○自ら進んで発想し構成する力や表現す る力を身につけようとしたか。	基礎練習プリント 作品評価
	1	・そっくりにつくる アイデアスケッチ			○感性や想像力を働かせて、自分の見方 や感じ方で作者の心情や意図と表現の 工夫、よさや美しさなどを感じ取るこ とができたか。	定期テスト 行動観察 振り返りシート
後 期	2	制作計画 作品制作 自己評価	学 年 末			
	3					

学習のすすめかた（第1学年 保健体育）

☆保健体育の学習で“めざす”こと☆

保健体育の学習は保健分野と体育分野に大きく分けられます。保健分野では心身の発育・発達や健康と環境、健康な生活と傷害や病気の予防などについて学習します。体育分野では、いろいろな運動を体験し、それぞれの運動に必要な技能を身につけ、さまざまな知識を学びながら、健全な心身をつくることを目指していきます。そして、これからの生涯を健康的に生きていくために以下の3つの観点を大切にしながら、授業を進めていきたいと思います。

- ◎運動を楽しむために必要な知識や技能を身につけるようにすること、また、健康・安全に関する理解を深めるとともに、さまざまな場面において活用できるようにしよう。
- ◎自他の課題を発見し、解決していくための方法を考えたり、工夫したりするなど、運動や健康・安全に関する思考力、判断力、表現力を身につけよう。
- ◎運動や健康・安全に対する関心を高め、主体的に関わり実践していこうとする態度を身につけよう。

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 新中学保健体育（学研） 副教材 中学体育実技（学研） 3年間の保健資料ノート（新学社）	もの	（体育）ipad （保健）教科書、ipad
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○自分やグループの目標や課題を持って授業に取り組もう。 ○個人の記録や課題、学習課題に対する振り返りをカードに記録していこう。 ○どんな課題に対しても挑戦する気持ちを大切にして積極的に取り組もう。 ○試合のルールや方法について理解し、主体的に取り組もう。 ○体力や技能の向上に向けての課題や解決策を考えながら、練習やゲームに取り組もう。 ○学習したことや重要なポイントを自分なりに工夫してワークシートにまとめよう。 《家庭学習》 ○中学体育実技や保健資料ノート、授業で配布したプリントを活用して学習しよう。 ○いろいろな運動やスポーツ、健康・安全に関する事象に興味・関心を持ち、メディアのニュースなどにも目を向けよう。 《定期テスト》 ○運動やスポーツのルールや技術習得のポイント、健康・安全に関する知識について、教科書、体育実技、保健資料ノートを活用して復習しておこう。 ○授業で使用したワークシートや単元のまとめのプリントを復習しておこう。		
学習上の注意等	○授業開始時、終了時のあいさつは、きちんとした態度と姿勢で行おう。 ○<u>チャイム</u>とともにラジオ体操とレクアップを行おう。種目に応じて各自でストレッチをしよう。 ○授業の規律やルールをしっかりと守るとともに、自他の健康・安全に十分留意して活動しよう。 ○授業で使用する用具やコート of 準備・片づけは全員で協力して行おう。 ○先生の説明をしっかりと聞き、授業の流れやポイントを把握しよう。 ○ケガや体調不良で見学するときは、できる範囲で授業に参加しよう。		

☆学習内容および評価について☆

学 習 計 画				評価にあたって		
期	月	単 元 計 画	試験	評価観点		評価の場面・方法
前期	4	オリエンテーション 集団行動・体づくり運動	期末	知識・技能	○各運動に必要な技術を身につけることができたか。	行動観察
	5	新体力テスト 体育理論（スポーツの多様性） 陸上競技（短距離走・リレー）			○身につけた技術を試合や発表の場で発揮できたか。	実技テスト
					○個人やチームで設定した目標や記録を達成できたか。	記録会
					○運動や健康・安全に関する知識を習得できたか。	発表会
						定期テスト
	6	器械運動		思考・判断・表現	○学習課題に関しての振り返りがしっかりできているか。	振り返りシート
	7	保健学習			○個人やチームで適切な課題や目標を持って取り組み、練習やゲーム等の場で実践することができたか。	行動観察
	8				○個人やチームで作戦を立てたり、課題解決に向けて工夫したりして取り組むことができたか。	定期テスト
	9	球技（ベースボール型）				単元のまとめ
後期	10	球技（ゴール型）	期末		○健康・安全への配慮を主体的に行うことができたか。	
	11	球技（ネット型）			○体力や技能の向上について、また、健康・安全に関する知識を正しく捉えて考えたり、表現したりすることができたか。	
	12	陸上競技（持久走）		主体的に学びに向かう態度	○運動や健康・安全について興味、関心を持ち、主体的な態度で取り組みことができたか。	行動観察
	1	武道 保健学習			○授業のルールや規律を守り、自他の健康・安全に留意して取り組むことができたか。	ワークシート
	2	球技（ネット型）			○準備や片づけに積極的に取り組むことができたか。	テスト反省
	3	球技（ゴール型）			○仲間と協力したり、教え合ったりしながら、課題に取り組むことができたか。	単元のまとめ

「技術」に生活の知恵がつまってる！（第1学年 技術）

☆技術の学習で「めざす」こと☆

- ◎ 作品を製作したり、コンピュータを活用したりすることによって、
「ものづくり」や「コンピュータ活用」の基礎的な知識・技術を習得しよう。
生活に必要な基礎的な「技術」について理解を深め、適切に活用する能力を養おう。
生活を工夫し、創造する能力を養おう。

1 「材料と加工の技術」

- 生活や産業の中で、「技術」がどんな役割をしているか考えよう。
- 製作するとき、設計（材料のことや機能のことなど）をよく考えよう。
- 製作するとき、工具や機器を安全・適切に使えるようになろう。
- 木材製品を利用した作品が製作できるようになろう。

2 「生物育成の技術」

- 生物の育成に適する条件や管理方法を考えよう。
- 社会・環境とのかかわりについて考えよう。

4 「情報の技術」

- 情報化が社会や生活に及ぼす影響や、コンピュータの役割を考えよう。
- コンピュータの基本的な機能を知り操作ができるようになろう。
- コンピュータでよく使われる応用ソフトウェアが使えるようになろう。
- 情報通信ネットワークの特徴を知り、利用できるようになろう。
- コンピュータを利用したマルチメディアが活用できるようになろう。

3 「エネルギー変換の技術」

- エネルギー変換のしくみを知ろう。
- 機器の安全な利用方法と保守点検ができるようになろう。
- エネルギー変換を利用した作品が製作できるようになろう。

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 新編 新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍） 副教材 自作プリント	もちもの	教科書・ファイル ファイルには、配付されたプリントや作成したレポート等を保管する。
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○まずは、学習課題をしっかりとらえ、頭と体、心をしっかり使いましょう。 ○わからないところやできないところを明確にして、学習・制作しましょう。 ○何事もじっくり考えて、自分にできる精一杯の工夫をしましょう。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手とするところにあえて挑戦しましょう。 ○できるようになったこと、自分の成長したことに自信を持ちましょう。 ○作品づくりにおいては、ていねいに製作に取り組みましょう。 《家庭学習》 ○家庭での仕事を手伝うこと。特に夏休み等の長期の休みに、家族の一員としていろいろな家庭での仕事を手伝うこと。 《定期テスト》 ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておきましょう。		
学習上の注意	○製作においては、目的と方法を理解・工夫し、ていねいに取り組みましょう。 ○製作においては、ケガをしないように十分注意しましょう。 ○完成したすべての作品をていねいに、大切に扱きましょう。 ○パソコン機器等をていねいに扱きましょう。		

☆学習内容および評価について☆

学 習 計 画				評価にあたって		
学期	月	単 元 計 画	試験	評 価 観 点		評価の場面・方法
前 期	4	○オリエンテーション ○情報の技術の原理・法 則と仕組み	期末	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	○身近な制作作品に興味をもち、技術の発 達や生活への活用を考えようと したか。	行動観察 提出作品 提出ファイル 定期テスト
	5	○ネットワークの危険性 と情報セキュリティ			○コンピュータに関心をもち、情報化が 社会や生活に及ぼしてきた影響につい て考えようとしたか。	
	6	○パソコンの起動・操作 の仕方 ○キーボードからの入力 ○ファイル管理の仕方			○コンピュータに関心をもち、積極的に 操作しようとしたか。	
	7	○応用ソフトウェアの活用 ・日本語ワードプロセ ッサ用ソフトウェア 《夏休み》		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	○応用ソフトウェアを利用して、情報の 簡単な処理をしようとしたか。	行動観察 提出作品 提出ファイル 定期テスト
	8	・日本語ワードプロセ ッサ用ソフトウェア			○応用ソフトウェアを利用して情報の処 理を工夫しようとしたか。	
	9					
	10	・表計算用ソフトウェ ア		知 識 ・ 技 能	○コンピュータの機能・操作に関する知 識を身につけているか。	行動観察 提出作品 提出ファイル 定期テスト
	11				○応用ソフトウェアに関する知識を身に つけているか。	
	12	・プレゼンテーション 用ソフトウェア 《冬休み》			○コンピュータの基本的な操作ができた か。	
後 期	1	・プレゼンテーション 用ソフトウェア	期末		○応用ソフトウェアの操作ができたか。	
	2	○プログラミングソフト ウェア				
	3	○マルチメディアの活用				

生活の全てが『家庭』です（第1学年 家庭分野）

☆家庭の学習で“めざす”こと☆

- ◎作品の制作や調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識や技術を習得しよう。
- ◎生活に必要な基礎的な「家庭」について理解を深め、適切に活用する能力を養い、生活を想像・工夫する能力を養おう。
- 自ら生活をつくる
 - ・生活の中で果たす食事の役割や健康な体とのかかわりについて考え、日常食の簡単な調理ができるようになろう。
 - ・TPOに応じた衣服の選択ができるようになるとともに、正しい手入れの仕方や簡単な補修の技術を身に着けよう。
 - ・健康で快適な室内環境について考え、持続可能な住生活の実現を目指そう。
- 生活者として意思決定する
 - ・責任ある消費者になるために、様々な販売方法や支払い方法の特徴を知り、自分で正しい意思決定ができるようになろう。
 - ・消費者としてできること(権利や責任)について知り、持続可能な消費生活を目指そう。
- ともに生きる
 - ・私たちの生活と家族家庭の機能や中学生としての家庭での役割を考え、自立した生活を送ろう。
 - ・幼児の心身発達の特徴を理解し、現代の子どもを取り巻く環境について知り、家族としての役割を考えよう。

☆学習を進めるにあたって☆

使用教材	教科書 技術・家庭（家庭分野）（東京書籍）	もちもの	教科書・家庭科ファイル
学習の進めかた	《確かな学力を身につけるには》 ○まずは、学習課題をしっかりとらえ、頭と体と心をしっかり使いましょう。 ○わからないところ、できないところを明確にして、学習・実習をしましょう。 ○何事もじっくり考えて、自分にできる精一杯の工夫をしましょう。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手とすることにあえて挑戦しましょう。 ○調理実習においては、安全面に気をつけて取り組みましょう。 《家庭学習》 ○長期の休み中に、実技テストの練習や課題プリントに取り組みましょう。 ○特に長期の休みに、家族の一員としていろいろな家庭の仕事を手伝いましょう。 《定期テスト》 ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておきましょう。		
学習上の注意等	○忘れ物がないように注意しましょう。課題提出の期限を守りましょう。 ○調理室や被服室で授業を行う場合は、チャイムが鳴るまでに教室移動をしましょう。 ○実習においては、目的と方法を理解し工夫して、取り組みましょう。 ○実習においては、ケガをしないように十分注意しましょう。 ○班員で仕事を分担し、能率よく協力して作業を行いましょう。		

☆学習内容および評価について☆

学 習 計 画				評価にあたって	
学期	月	単 元 計 画	試験	評 価 観 点	評価の場面・方法
前期	4	オリエンテーション 自分の成長と家庭の機能 食生活チェック 食事の役割	知識・技能	○自分の成長や生活について知る。 ○健康に良い食習慣について理解している。 ○食品に含まれる栄養素について関心をもって学習に取り組むことができる。 ○食品に関心をもち、選択しようにすることができる。 ○日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得することができる。 ○食品の栄養素の特質について関心をもち、献立を考えることができる。 ○食料や環境問題について関心をもつことができる。	定期テスト 小テスト (栄養素・食品群) 調理に関するレポート 調理実習・実技テスト 6つの食品の分類 献立づくり
	5	健康な食習慣 5大栄養素の働き 中学生に必要な栄養			
	6	食品成分表 食品の栄養的特徴 6つの基礎食品群			
	7	調理室の使用について 食品の切り方と包丁練習 バランスのよい献立作り			
	8	(夏 休 み)			
	9	実技テスト 生鮮食品と旬 加工食品・食品表示			
			思考判断表現	○食事点検から課題をみつけ、その解決をめざして食事の取り方などについて考え、工夫することができる。 ○中学生1人分の献立について問題を見つけ課題設定やその解決策を構想しまとめることができる、 ○日常食の調理について、調理方法や時間配分など考えて実践計画を考えている。 ○食品の栄養的特徴や調理上の性質について問題点を見つけ、それについての解決策を構想し、課題解決することができる。	課題プリントのまとめ (メモや感想などの表記) 長期休業中の課題提出 献立を立てる際の工夫 調理実習プリント 食品成分表の使い方
	10	食品の保存方法 食品添加物			
	11	計量の基本 肉の栄養と特徴			
後期	12	野菜の栄養と特徴 調理実習	主体的に取り組む態度	○自分の食習慣について問題点を見つけその解決方法に主体的に取り組んでいる。 ○中学生向けの献立の作成に主体的に取り組み、食生活を工夫して実践しようとしている。 ○調理実習では、グループ内でしっかり話し合いを行い、主体的に率先して実習に取り組んでいるか ○日常の1食分の調理について、課題解決に取り組み工夫実践しようとしている。 ○よりよい食生活に向けて主体的に取り組んでいる。 ○よりよい食生活を目指して、主体的に取り組んでいる。	調理実習時の行動観察 プリントの提出状況 (振り返り) 長期休業中の課題提出
	1	魚の栄養と特徴 調理実習			
	2	日本の食文化と和食 郷土料理			
	3	持続可能な食生活 受け継がれる食文化			

☆英語科の学習で目指すこと

みなさんは、小学校の英語活動の時間で英語の音に慣れ親しみ、英語で積極的にコミュニケーションをはかる態度を養ってきたことと思います。小学校の英語活動では「楽しく」でしたが、中学校ではそれに「正しく」が加わります。小学校で慣れ親しんだ英語の音を、中学校ではより「正しく」発音できるように目指します。また文字を「正しく」書けるようにもしていきます。その上で、文を正しい語順に従って「正しく」作るという英語の基礎・基本を学習していきます。

また、英語を学ぶ上で、異文化を理解し、自他共に尊重できる心情を養っていきます。それを踏まえた上で、4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランスよく学び、コミュニケーションの力を養っていきます。コミュニケーションを取るうえで最も重要なことは何か分かりますか？それは「相手に何かを伝えようとする気持ち」です。話すだけがコミュニケーションではありません。ジェスチャーを使ったり、文字で伝えたりすることも立派なコミュニケーションです。その中で、英語は話したり、書いたりすることで考えを伝える力を養うことを目指します。

☆学習の取り組み方

小学校では、主に「聞くこと」「話すこと」を中心に英語を学習してきましたが、中学校では、これに加えて「読むこと」「書くこと」を学んでいきます。まずは、文字を正しく書けるように、アルファベット26文字の学習から始めます。その上で、英語の発音と文字の関係を学びます。生徒は教師やCDの発音をまねして実際に声に出すという姿勢が大切です。恥ずかしからず大きな声で発声しましょう。

また、英語ではコミュニケーションの力が最も必要とされています。失敗を恐れず、英語を用いて積極的に意思伝達をしていきましょう。そのためには、英文を正しく作る力、すなわち単語を文の規則に従って正しく並べ、組み立てることが大切になります。英語に関する規則をしっかりと身につけましょう。また、文を作るための「材料」となる単語(1年間で600語程度)をしっかりと学び、3年間の土台を作りましょう。

◇予習・復習について

＊予習 単語の意味調べをしよう。また、教科書本文を書いたり、読んだりしておこう。

＊復習 授業で学習した内容を思い出して、ワークの問題を解いたりしよう。(分からないことは質問しよう)

☆学習上の注意

- ・授業はチャイムが鳴るまでに着席し、授業の準備をしておこう。
- ・忘れ物をした場合は、必ず授業前に先生に言うこと。忘れても絶対に貸し借りをしない！
- ・宿題や提出物の期限を守ろう。

使用する教材	教科書	NEW HORIZON English Course I (東京書籍)	毎回の準備物	・教科書
	副教材	英語マスターノートⅠ		・英語マスターノートⅠ
		新英語のワークⅠ		・新英語のワークⅠ
		English PENMANSHIP		・English PENMANSHIP
		基本文マスター32		・基本文マスター32
		聞きトレ		・英語のファイル

☆評価について

評価の観点	内容	評価の方法
知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題についての文章等の内容を捉える技能や、自分の気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	中間・期末テスト レポート 小テスト（単語テスト等）
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について考えたり、判断したり、自己表現する。	中間・期末テスト パフォーマンステスト ペア・グループワーク
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて学ぼうとする。	パフォーマンステスト ペア・グループワーク 授業態度、提出物

☆授業の計画

学期	月	主な学習内容と学習目標	学期	月	主な学習内容と学習目標
前期	4	Unit0 <u>Nice to Meet You</u> Sounds and Letters 0 Grammar for Communication 0 Unit1 <u>Hello, Everyone!</u> Sounds and letters 1	後期	10	Unit6 <u>A Rakugo Performer from the U.K.</u> Unit Activity キャラクタークイズ大会をしよう Real Life English 友達の家で Grammar for Communication 5
	5	Unit2 <u>Our New Teacher</u> Sounds and letters 2 Grammar for Communication1		11	Unit7 <u>An Online Tour of the U.K.</u> Unit Activity 学校や町の様子を説明しよう Real Life English 道案内 Grammar for Communication 6
	6	Unit3 <u>Our School</u> Sounds and letters 3 Grammar for Communication2		12	Unit8 <u>Think Globally, Act Locally</u> Real Life English レストラン Unit Activity 2 My Hero
	7	Unit4 <u>Friends in New Zealand</u> Sounds and letters 4 Grammar for Communication 3		1	Unit9 <u>Winter Vacation</u> Unit Activity 冬休みの出来事を伝え合おう Real Life English 旅先からの便り Grammar for Communication 7
後期	9	Our Summer Vacations 夏休み特集 Unit5 <u>My Brother in Hawaii</u> Unit Activity 友達紹介のスピーチをしよう Real Life English コマーシャル Grammar for Communication 4	後期	2	Unit10 <u>This Year's Memories</u> Unit Activity 日記で思い出を残そう Real Life English 病院にて Grammar for Communication 8
				3	<u>Learning Literature in English</u> Stage Activity3 My Favorite Event This Year <u>Let's Read Gon, the Fox</u>

CAN-DO リストとは、学習の到達目標を「～することができる」という形で指標化し、英語を使って具体的に何ができるようになったのか、明確化するためのものです。文部科学省の有識者検討会が 2011（平成 23）年に提唱し、中学校や高校で具体的な指標を設定するよう求めています。たとえば、中学校卒業までに「聞いたり読んだりしたことなどについてほかの人と話し合い、理解したことを確認したり、意見の交換をしたりすることができる」（話すこと）、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりや全体としてのまとまりに注意してある程度の長さの文章を書くことができる」（書くこと）といったような形式のものです。本校では、学年ごとにより具体化した指標を作成し、勢和中学校英語科 CAN-DO リストとして設定しました。

勢和中学校英語科 Can-Do リスト

1 年生		
夏休みまで	冬休みまで	学年末
・簡単な英語を用いて 3 文以上で自己紹介の原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、自己紹介のスピーチを行うことができる。（話すこと production） ・他人の自己紹介のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、聞き取った内容についての質問を英文で書くことができる。（聞くこと、書くこと）	・簡単な英語を用いて 5 文以上で任意の他人の紹介の原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、他人の紹介のスピーチを行うことができる。（話すこと production） ・他人のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、聞き取った内容についての質問を英文で書くことができる。（聞くこと、書くこと）	・簡単な英語を用いて 5 文以上で 1 年間の思い出についての原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、スピーチを行うことができる。（話すこと production） ・他人のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、聞き取った内容についての質問を英文で書くことができる。（聞くこと、書くこと）
2 年生		
夏休みまで	冬休みまで	学年末
・簡単な英語を用い、Topic sentence, Supporting sentences, Concluding sentence の段落構造を意識して 5 文以上で職業体験の思い出についての原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、職業体験の思い出についてスピーチを行うことができる。（話すこと production） ・他人のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、聞き取った内容についての質問を英文で書くことができる。（聞くこと、書くこと）	・簡単な英語を用い、Topic sentence, Supporting sentences, Concluding sentence の段落構造を意識して 5 文以上で自分の町を紹介する原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、原稿を見ずに自分の町を紹介するプレゼンテーションを行うことができる。（話すこと production） ・他人のプレゼンテーションを聞き、その内容を理解できる。また、必要に応じて内容について英語で質問することができる。（聞くこと、話すこと interaction）	・簡単な英語を用い、Topic sentence, Supporting sentences, Concluding sentence の段落構造を意識して 5 文以上で将来の夢についての原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、原稿を見ずに自分の将来の夢についてスピーチを行うことができる。（話すこと production） ・他人のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、必要に応じて内容について英語で質問することができる。（聞くこと、話すこと interaction）
3 年生		
夏休みまで	冬休みまで	随時
・簡単な英語を用い、外国人生徒に対するインタビュー台本を書くことができる。（書くこと） ・自分の書いたインタビュー台本をもとに、国際交流事業で、外国人生徒に対してインタビューできる。（話すこと production, interaction） ・外国人生徒とのインタビューで、相手の応答を聞いて理解し、即興的に応答しインタビューを続けていくことができる。また、必要に応じて外国人生徒に質問することができる。（聞くこと、話すこと interaction） ・国際交流事業で、外国人生徒と簡単な英語でメールでやりとりをすることができる。自分の言いたいことをメールに書いて送り、送られてきたメールの内容を理解できる。（読むこと、書くこと）	・簡単な英語を用い、Topic sentence, Supporting sentences, Concluding sentence の段落構造を意識して 5 文以上で日本文化についての紹介原稿を書くことができる。（書くこと） ・また、他人の書いた原稿を読んで内容を理解でき、それに関する感想やアドバイスを日本語で書くことができる。（読むこと） ・さらに、他人のコメントやアドバイスを元に、自分の原稿を改善し、原稿を見ずに ALT にもわかるように日本文化についてスピーチを行うことができる。必要に応じて、ALT からの質問に答えることができる。（話すこと production, interaction） ・他人のスピーチを聞き、その内容を理解できる。また、必要に応じて内容について英語で質問することができる。（聞くこと、話すこと interaction）	・簡単な英語を用い、「給食がよいか、弁当がよいか」等の質問に対する自分の意見とその理由を、Topic sentence, Supporting sentences, Concluding sentence の段落構造を強く意識した 5 文以上の論理的な文章で書くことができる。（書くこと） ・さらに、自分の原稿を見ずに与えられた質問について口頭で他人と意見を述べ合うことができる。（話すこと production, interaction） ・他人の意見を聞き、その内容を理解できる。また、必要に応じて、その内容について英語で質問・反論することができる。（聞くこと、話すこと interaction） ・さらに、自分の意見と他人の意見を文章でまとめ、その内容を理解した上で、意見の異同について英語でコメントを書くことができる。（読むこと、書くこと）（聞くこと、話すこと interaction）